

# Hyper Ing 2012

”Hyper Ing”は上高生を応援する先輩メッセージです。 上野高校HP→進路指導室→進路通信 でバックナンバーが閲覧できます。

上野高等学校進路指導部 vol.15 2012/12/10

## 上高の「花道の先輩」ドキュメント その9

上野高校を巣立った先輩たちがどのように学生生活を送っているのか、進路主任の富澤が大学を直接訪問してお話を伺いました。第9回は2012年10月17日、大阪市にある大阪市立大学杉本キャンパスを訪れました。

### 第9回：経験は成長の糧

大阪市立大学 文学部 人間行動学科 教育学コース 4年 山口 恵子さん



◇「就職難」ならぬ「就活難」の大学生

——大阪市立大学は2回目の取材です(第12号参照)。本日は名張駅から近鉄、環状線、阪和線を乗り継ぎ約1時間45分で到着しました。山口さんは4年生で今は卒業研究で忙しい時期です。どのような研究をされているのですか？

山口 大学におけるキャリア教育について研究しています。これまで企業は新入社員を採用してから教育していました。ところが昨今の不況の影響からか、新入社員を教育する時間的、財務的余裕がなくなり、企業は「即戦力」の学生をほしがっている傾向にあります。そのため大学生に求められる力が増えてきています。例えばコミュニケーション能力や、対人関係能力などです。しかし私にはこうした能力はどうやって身

につくかよくわかりませんし、例えば「部活でキャプテンしていました」、「ワーキングホリデーに行っていました」など大学教育と関係が希薄な能力といえます。企業が大学生に社会人として何年も経験している人と同等の能力を求めることに問題があると考えています。

——そういう傾向は大学教育に支障をきたしますね。

山口 専門教育が形骸化しています。そこで私は教育学の視点から、キャリア支援を含む大学のキャリア教育のあり方について調べています。特に人文、社会系の学生にとって就職難は深刻です。そのうちの民間就職希望者を対象に、専門教育とキャリア教育のつながりについて考察する予定です。

——まさに我々を直撃していますね(笑)。就活は3年生から始まるから学部の専門教育が成り立ちません。

山口 早くに実社会とふれあうことそのものは悪くないと思いますが、そのふれあい方に問題があります。大学に来ている以上は勉学が第一のはずですが、例えば「インターンシップがあるからゼミを抜けます」とか、「就活塾」という就活のテクニックを教える塾に通うとか。「そういうのに行っておけば就活がうまくいく」という風潮がまかり通っている現状です。私は、専門教育を通じて考え方や発表する力が身につき、それが社会に出てから役立つのであって、小手先の就活対策よりもしっかり専門教育をやるのが重要だと考えます。

——しかしこの問題、事実に基づいて論証するのは難しいですね。

三重県立上野高等学校

山口 最初は「学校で身につく能力とは何か」を考察してみたのですが、論証しづらいです。基本的には先行研究にインタビューやアンケートがあるので、まずはそれを活用して、どうしても自分の欲しいデータがない場合はインタビューやアンケートを行います。でも自分が思ったようなデータが出ないと悩みますね。

——卒業論文は、まず先行研究の整理からですね。またこの研究の場合アンケート対象が難しいのでは。大学の先生は教育より研究がメインですが、大学教育についてどう考えているのでしょうか。

山口 昨日和歌山大学に行きました。和歌山大学はキャリア教育が進んでいて、各学部にキャリアセンターがあります。担当の先生が学生の顔と名前を把握していて「今どうしているの」と連絡するなど最後までしっかりみるという体制です。大阪市立大学にもキャリアセンターはあるのですが、5、6人で全学部を見る体制でスタッフも大学職員です。一方和歌山大学のスタッフはほぼ教員で、授業も受け持ちながら学生の相談をしています。一般教養の中にキャリア教育科目という授業もあります。ですから学生もサポートされている感覚があって、就職率はかなり良いようです。

——私立大学では1年生からキャリア教育が専門の教員によって行われています。ただ多くは資格検定やマナー講座など「就活指導」ですし、大学教育の中身まで専門学校化している様子には違和感を覚えます。山口さんは、「専門的研究とキャリア教育の両立」を模索しているのですね。

山口 そういうことです。

——私は教員ですから民間とは事情が違いますが、私の芯になっていることは、学部での勉強や卒業論文で得た、学問の手順、ものの考え方やまとめ方だと感じています。

山口 そういう考え方とか実際に身につけた知識、例えば哲学や宗教など物事を考えるベースになることであれば、誰がどうい宗教を作ったという知識は役に立たないかもしれませんが、その考え方はどの現場に行っても役に立つと思います。

——文学部は物事の根本を考えるとところですから、企業からすると理屈っぽい文学部生は困りますかね（笑）。

山口 その辺が問題だと思うのです。「役に立つとは何か」ということを研究したいのですが、「こういう勉強をしたらこんな力がついた」というのは数値化するのが難しく、和歌山大学の先生にも「目の付け所はいいけど実証するのは難しいのでは？」と言われました。まずはその前提となる「能力」について、第1章で整理し論証しています。

——企業が有用と思う人材像と、大学の先生が学部教育で目指していることを明らかにすれば、そのギャップを明確にすることができるかもしれませんね。

山口 文部科学省のいう「学力」、経済産業省が提唱する「社会人基礎力」、経団連の企業向け調査、先行研究などをまとめています。第2章では必要に追われて（笑）設置された大学のキャリアセンターについて考察しています。和歌山大学のように



しっかりしたところもあれば、それこそ小手先の「就職活動支援」のようなどころもあります。第3章はどうしようかちょっと迷っているところです。

——その調子だと現状がまずいことを明らかにして終わってしまいそうですね（笑）。

山口 そうなんですよ（笑）。そこで昨日のインタビューをもとに何を具体的に論証しようか考えているところです。でも興味のあることなので頑張ります。私も就職活動をしていて感じたこと、みんなの様子を見て思ったことがあるので。

——卒論はそのテーマと1年間つきあうのですから、それこそ小手先では続けられませんね。資料を見せてもらうと、卒論の中間報告もあるのですか？

山口 定期的に進捗状況を担当の先生に報告して、質問やアドバイスをいただきます（写真）。大阪市立大学の文学部にはゼミがありません。1年生は一般教養、2年生からコース分けがあって、コースに関係する講義を取り、3年生の終わりに卒論のテーマを決めると、その内容によって担当の先生が決まります。

◇興味があるから続けられる

——教育学を専攻したのはなぜですか？

三重県立上野高等学校

山口 もともと人間に興味があったので、人間行動学科に進もうと思っていました。その中に教育学、心理学、社会学、地理学の4コースがあり、私は昔から「能力」に興味があって、その多くは「三つ子の魂百まで」と言われるように家庭で育まると考えていました。また子どもは1日の大半を学校で過ごすので、教育について学びたいと思いました。

——人間に興味があるのは昔からですか？

山口 そうですね。昔から癖というか、電車の中で人を観察したり(笑)、「この人はこういう人かな」分析したりしていました。みな同じ人間なのにそれぞれ別々なところが面白いと思いました。

——個性の違いには何が影響するのか、考え出すと興味深いですね。

山口 私は元々興味のないことはできないタイプです。興味を持っていないことでもやらなければいけないと思ったら興味を持って取り組める自信はありますが、選べるなら自分にとって身近に考えられることを選びます。

——どこの高校でもたいてい1年生で文理選択をします。16歳ぐらいで自分の進路を大まかに選ばなければなりません。志望先を興味で選ぶのか、就職から選ぶのかで悩む生徒は多いです。

山口 私も教育実習の時、上高生が高校1年生で薬剤師や理学療法士を志望しているのすごいなと思いました。一方で早い段階から自分の進路を決めつけるのはどうかとも感じます。私は大学に入ってから専攻を決めることができる大阪市立大学を選びました。ただ、大学受験は志望変更がききますが、就職は事情が違います。「とりあえず入れればいい」と思って就職しても、「自分と思っていることと違う」といって早期離職することが問題になっています。私の研究範囲は大学ですが、早いうちからキャリア感、自分が将来どういう社会人になるか、ということをも身につける必要はあると思います。

——中高でも職場体験やインターンシップが職業紹介で終わってしまい、キャリア感を深めるまでにはいたらないこともあります。高校の進路指導も「就活指導」のように「合格指導」に陥ってはなりません。薬剤師なら、6年勉強して、国家試験に合格して、さらに…と、人は自分が選んだ職業に一生向き合わなければなりません。

#### ◇しんどいことを楽しむ

——「教育学」は教員養成課程と違い教育そのものを考える学問ですが、何か面白い授業はありましたか？

山口 小学校に行って、ひとりの子どもに着目して、先生の働きかけでどのように変化するかを観察しました。私は2年生の教室に入りました。担任の先生が子どもの競争心をうまく利用して、ゲーム要素を取り入れながら学習活動を進めていました。私が着目したTさんは、友だち思いなのですが落ち着きがなくてよく先生や周りの子から注意される児童です。学習に身が入らないのは自分のしていることに自信が持てないからだと考えた担任の先生は、Tさんができたことを認め、褒めることで自信を持たせ、頑張ることの大切さを教えていました。非常によい経験をさせて頂きました。他には韓国の教育行政、教育の方法論、不登校などについて調べ、議論をしました。文学部は物事を深く考えたり、人と議論したりする中で見えていなかったことが見えてくるところが魅力で、こういう力が社会に役立つと思うのですが(笑)。

——その辺が巷では理解されないのが悩みですね(笑)。山口さんは研究以外にも体育会で活躍されていたそうで。

山口 もともと体育会の女子バスケットボールに所属していました(写真)。さらに体育会をまとめている「体育会本部」で仕事をしていた、2年生では大学祭の実行委員会に派遣され、3年生では「ボート祭実行委員会」に参加しました。市大は毎年大川(注:JR大阪環状線桜ノ宮下車すぐ)でボート祭をしています(写真)。私が担当した時は第120回の記念大会でした。毎年参加者が減っていたので、参加チーム(注:学部、サークル、市民の部などがある)を増やすために企業に参加を依頼したり、運営費からボートを手配したり、競技に花を添えるステージを企画したりしました。それからパンフレットを一新したり、参加費を値下げしたりして、最終的に参加チームは約20増えて100チームを超えました。

——イベントの段取りは最も大変です。しかも実行委員会はボランティアだし、各部署から派遣されている寄り合い所帯ですからうまくいかないこともあるのでは？



山口 年下の子は「今日バイトなんで～」とか言ってなかなか参加してくれず、結局私が全部やることになったり。みんなのモチベーションを維持するにはまず仲良くなることだと思ったので、全員が参加する懇親会という名の飲み会（笑）を増やして、「おまえが行くなら俺も行く」といった繋がりを作りました。それからパンフレットの広告原稿や協賛金を集める



るのは後輩の仕事なのですが、これが全くできてなくて（笑）、結局私が行ったりとか。普段から飲み会は地元のお店を使うなど、こちら繋がりを作っておく必要があります。またこれまでは広告を取ったのにパンフに載ってなかったり、印刷屋さんの締め切りを守らなかったりということがあって相手も疑心暗鬼で（笑）。私の代ではそういうことをなくしたので、関係者はみんな「こんなボート祭は初めてだ」と（笑）。

——こうした経験は今後仕事をする上での重要な経験になります。実際にやった人にしか身につけません。さて、高校時代はどのような学校生活でしたか？

山口 私はバスケットボール部で、高校1、2年生はバスケ漬けで、でも定期考査は平均80点から90点取ると決めて頑張りました。バスケ部は引退が3年の4月と早いのですが、他の人たちがまだ部活をしているのでフラフラとしていました（笑）。夏休みになって塾へ通っている友達が受験対策を始めたと聞いて、塾に行っていない私は焦って、小さいノートに日付と今日やることを箇条書きにして、終わったら消して、最後に一日の勉強時間を記録しました。これを毎日続けると、授業のない日は平均10時間勉強していることに気がついて、その後も達成感を感じながら楽しく勉強できました。受験の前に不安になった時はこのノートを見返して、「これだけやったのだから大丈夫」と自分を落ち着かせました。

——現在上野高校で取り組んでいる学生手帳と同じですね。

山口 「スクルテ」ですね。あれが自主的にできるようになればいいですね。上野高校へ実習に来て、私たちの頃より校則が厳格になった一方で文化祭のクラス発表など自主性ができてきて「いい変化だな」と教育実習生一同が思いました。

——最後に後輩にメッセージをいただけますか？

山口 今できることを全力でやって欲しいです。「できること」とは「やりたいこと」と「やらなければいけないこと」の両方です。どうせなら楽しんでやる。人生1回しかないのだから「楽しんだ者勝ち」だと思います。面倒くさいことでも、その中にいかに楽しみを見いだせるかが大事だと思うので、とりあえず目の前にある受験や部活動を悔いのないよう全力で取り組んでください。私の場合の楽しみは小さな達成感でしたが、「大学に入ってこんなことがしたい」という目標を持ったり、もっと本質的に「わからなかったことがわかる」ことに喜びを見いだせば勉強は楽しくなると思います。高校の時は考えませんでした。今は「しんどいことも嫌なことも経験と思えば楽しめる」と考えることで、私は体育会本部の仕事や部活のキャプテン

などあり得ないほどしんどいことを乗り越えられたと思います。大学入試も「自分の第一志望に合格するのはおそらく人生で一度きりの経験」と視点を変えれば、貴重に思えるはずです。ちょっと精神論で説教くさいですね（笑）。

——人生は一度きり。面倒くさがらず色々な経験をしないとつまらないです。山口さんは民間への就職が内定していますが、将来大学に戻ってくるという構想を抱いているようです。様々な経験を積んで再び教育の最前線に立つ日が来ることを心待ちにしています。ありがとうございました。

山口 最後に、最近大阪市立大学にあまり後輩が来ないので寂しいです（笑）。お待ちしております。



ヨーロツパー人旅 ローマで

三重県立上野高等学校